

ミズノ地球環境保全活動の歩み

1991年	9月	「Crew21(ミズノ地球環境保全活動)プロジェクト」発足
1992年	1月	「ミズノ地球環境憲章」と「スローガン」を制定
	4月	商品の配送に「折りたたみ式コンテナ」の導入開始
1993年	1月	養老工場(現ミズノ テクニクス株式会社)で「有機溶剤廃液の再生使用」開始
	2月	直営小売店で、簡易包装推進を開始
1994年	6月	商品の配送に繰り返し利用可能な「ポリプロピレン製ダンボール」の導入開始
1995年	3月	「リサイクルコットンを使用したアウトドアウェア」発売
1996年	12月	リサイクル人工皮革採用のスポーツシューズを海外で5機種、国内で1機種販売
1997年	2月	「リサイクルラバー使用のウォーキングシューズ」発売
	6月	スポーツ業界初、養老工場(現ミズノ テクニクス株式会社)がISO14001審査登録(認証取得)
	10月	「ミズノ環境ラベル」を制定
1998年	2月	長野五輪のオフィシャルスタッフユニフォームに「リサイクル循環システム」をスポーツウェアで初めて採用
	7月	環境マネジメントシステム(EMS)を全社で水平展開開始
1999年	3月	「ミズノ環境方針」制定
2000年	2月	環境に配慮した軟式野球グラブ「エコグラブ」発売
	9月	「環境報告書」発行(以後、毎年1回発行)
	11月	養老工場(現ミズノ テクニクス株式会社)が岐阜県より環境配慮型事務所(E工場)に認定される
2002年	2月	「ISO14001」国内全事業所で審査登録(認証取得)
	4月	ミズノ テクニクス株式会社が「ゼロエミッション」達成
2003年	3月	ミズノの製造関連全子会社(当時7社)が、「ゼロエミッション」達成
2004年	5月	上海ミズノで「ISO14001」「ISO9001」同時審査登録(認証取得)
2005年	5月	ミズノテクニクス(株)にてパット不適合材を使用した木工品を製造・販売
	10月	岐阜県高山市にて「パットの森」育成事業に協力開始
2006年	6月	環境省が呼び掛ける「CO ₂ 削減/ライトダウンキャンペーン」に参加
2007年	11月	環境省が推進する「1人1日1kgCO ₂ 削減、私のチャレンジ宣言」を、全従業員を対象に実施
2008年	2月	台湾ミズノでISO14001審査登録(認証取得)
2009年	11月	ヒマシ油からできた新素材ペバックスアールニューを採用したランニングシューズを発売
		ミズノテクニクス(株)でゴルフクラブなどの製造で培ったカーボン成型技術を活用した、風力発電機の翼を開発・販売
2010年	4月	「ミズノ環境方針」を改訂
	10月	ミズノピクトリークリニックで、環境啓発活動をプログラム化
2011年	2月	環境配慮型商品の新しい認定基準「ミズノグリーングレード」を制定
	7月	東日本大震災からの電力不足に対応するため、工場部門での生産機械や、全社での空調や照明設備での節電活動を展開
	12月	ミズノグローバル全体での二酸化炭素排出量の把握
2012年	6月	「一人ひとりができる節電活動」としてPCや事務機器で、更にきめ細かい節電活動を実施
2013年	6月	ミズノテクニクス(株)で廃カーボン販売を開始
2014年	4月	省エネ対策でLED照明の拡充
2015年	2月	「ISO14001」セノーグループを新規追加登録
	12月	「第17回グリーン購入大賞」で優秀賞を受賞
2016年	4月	「ミズノ環境方針」を改訂
		ミズノ長期環境目標「海外事業所を含むミズノグループで、2030年に2013年度比でCO ₂ 排出量を30%削減する」を策定
2017年	4月	ISO14001認証取得範囲を環境負荷の高い事業所を中心に見直しを実施し、取得範囲を変更
2019年	1月	AFIRMに加盟。AFIRMからの情報を基に、国際基準の制限化学物質リストを作成し、サプライチェーンの製品残留化学物質の管理を強化
2020年	4月	SDGsの考えを取り入れ「長期経営方針」を改定。同時に「SDGs推進指針」を制定
	8月	ミズノの長期環境目標として「2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指す」ことを決定
2021年	5月	2030年環境目標 CO ₂ 排出量「Scope1,2において2018年度比で30%削減」「Scope3において2018年度比で50%削減(製品当たり)」 「2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指す」を対外的に発表
	7月	「ミズノ環境方針」を改訂
	11月	SBTイニシアチブに対しコミットメントレターを提出
2022年	3月	「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」への賛同を表明し、同年7月にTCFDレポートを開示